

# おもむく企業 ユニーク戦略

● 22 ●

経済や社会のグローバル化が進み、ビジネスをはじめ多くの分野で事実上の世界標準語となっている英語への関心は強まる一方だ。イタリア生まれの教育法を取り入れ幼児教育を実践してきたレインボーインターナショナルは国内の学校で行われてきたとは違った手法でバイリンガル教育をはじめようとしている。

## 体験を生かす

レインボーインターナショナルは9月から、イタリアで開発された「モンテッソーリ教育法」を応用し、日本語と英語のバイリンガル教育を始める。これまでは英語だけで教えてきたが、帰国子女や国際結婚が

増え、日本のアイデンティティーを身につけることも必要と感じたためだ。同教育法は視覚や触覚など五感をフルに使って言葉や算数を覚える。サラマック栄理子社長(43)は、「大学のときは英語が全然できなかった。でも好きなロックの歌詞を歌いながら一生懸命覚えたらできるようになっていた」と振り返る。五感を使い、英語を覚えた自らの体験がいまの教育に生きている。

## 障害児の支援基に

モンテッソーリ教育法はイタリアで最初の女医となったマリア・モンテッソーリが障害児向けに開発した手法が基本だ。欧米諸国で

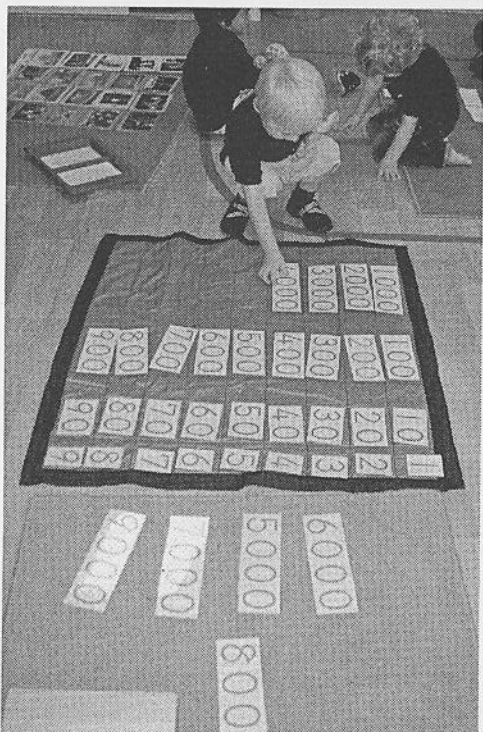
レインボーインターナショナル(モンテッソーリ式の英語教育)

はすでに広く採用され、アジアでも増えているという。「5歳までに言語脳はできる。オランダの学校では一つの教室にフランス語、ドイツ語、オランダ語を話す先生がいて、子供たちは3人の先生にそれぞれの言語で話す」と子供には早くから、言葉の能力を身につけさせることが大切という。

同社は、この教育法で過去15年にわたり、帰国子女や国際結婚で生まれた子供たちを中心に英語教育を行ってきた。

例えば言葉を感じるのであれば、紙ヤスリで作った文字の形を指でなぞり、後から一種類の音だけを聞き取らせて、スペリングと意味を知る。最初に文字の形を見て指で触れ、耳で発音や言葉の音節、そして言葉自身をつける。さらに「マッチングカード」で絵を見ながら文章を作る遊びをす

# 五感フルに使い学習



レインボーインターナショナルが運営する「アカマイセンター」でモンテッソーリ教育法によって学ぶ子供たち 〓東京・西麻布

るうちに、3歳くらいには自分で本を読むようになるという。算数では、例えば縦2個、横2個の四角にまとめたビーズが1本の4個のビーズに伸びる、「ヘビ遊び」で平方や平方根の概念を教えるほか、より大きな数を学んでいく「切手遊び」「銀行遊び」もある。障害児の教育方法を応用しただけあって全身で遊びながら言葉や数字を覚えていく仕組みになっている。

## イタリアの手法を実践

カルチャーも英語で 一方、小学校に上がる前の子供たちだけでなく、中高生や若い大人向けにも、英語でウクレレやフラダンス、パソコン、ヨガを学ぶカルチャースクールを開いている。8月からは英語のDJ(ディスクジョッキー)教室も開講する。日本の語学教育は机上の学問に終始してきたが、お世辞にも国際競争力が高いとはいえない。サラマック社長は、モンテッソーリ教育法で英語を楽しく学びながら豊かな人格もはぐくむ、活動を広げていきたい考えた。(広瀬洋治)

〓火曜日に掲載

## 37カ国が飢餓線上に

原油、金属のハードコモディティから、穀物など農産物のソフトコモディティへ広がる投機熱の炎は、37カ国の民を飢餓線上に追いやわっている(FAO) 国連食糧農業機関(FAO)が、

# G20の新たな枠組みで規制

部長

立新聞社 一ヨ次長 4月 005年 国際金 銀行